

172

1.2~2.4リットルを搭載する

フィアットのコンパクトハッチ

予想発表時期01年



フィアット ブラーボ／ブラーバ

フ

フィアット・ブラーボ／ブラーバのモデルチェンジ情報をお届けしよう。

まず現行の説明から始めると、デビューは95年。ブラーボは3ドア・ハッチバック、ブラーバは5ドア・ハッチバック（小さなノッチ付き）。これら2車種でひとつのシリーズを構成し、市場のポジションはミドルクラス。日本には「ブラビッシモ」のネーミングが与えられ、5ドアボディのみが導入された。

ライバルはメガーヌ、アストラ、ゴルフ、フォルクス、306、クサラ、そして価格帯は離れるがアクラスなど。この市場で年間20万台を販売し、ゴルフに次ぐ堂々2位だ。セグメントを細分すればブラーボ／ブラーバはアンダーミドルクラスのベストセラーになる。

さて、気になる次期型の発表予定は01年。これまではハッチバック・ボディのブラーボにモデルは一本化され、ブラーバは廃止されると伝えられてきたが、今回入手した情報で修正がある。このフィアットのミドルクラスの主力モデルには3ドアと5ドアが用意されるというのだ。どちらもハッチバックなのだが、スタイルは互いに大きく異なる。そして5ドアの方にブラーバの車名が存続する。ブラットフォームはすべて新開発だ。

3ドアであるブラーボは全長4・25、車重1300kg、外観デザインはウェッジシェイプがきいており、リアゲートも大きく傾いたスポーティ路線を行く。5ドアのブラーバは全長4・5、車重1450kg、リアゲートは立っており、ごくごくコンベンショナルなゴルフ路線である。形は別としてこの役割分担

は現行と変わらない。

02年にはアッパミドルクラスのマレア・ウィークエンド（ワゴン）が引退するので、その後を継ぐワゴンがおそらくブラーバに追加されるという。マレアはさらに上級へ移行してひょっとしたらモデル廃止、代わってクロマの名前が復活するかもしれない。

話をブラーボ／ブラーバに戻そう。エンジンの選択肢はたくさんある。まずモデル登場時は1・2 16バルブ（80PS）と1・6 16バルブ（103PS）、そしてホットモデル用2・4 20バルブ（171PS）のガソリンエンジンと、1・9 JTD（110PS）の計4機種。

しばらくして出力75PS前後のディーゼルエンジン（排気量不明）と1・8 のガソリンエンジン（出力不明）が追加される。ブラーボに設定がある2・4 5気筒ユニットは、従来の2 直4からの発展と考えられる。ホイールは15インチ、5気筒ユニット車は16インチを履く。

トランスミッションは、今回ガソリンエンジン仕様には6速MTが設定されることが特筆される。さらに5気筒モデル、つまり一部のブラーボにはセレスピードまで設定されるという。こう見ていくと次期ブラーボ／ブラーバは、発表されたばかりのアルファ147ハッチバック、そして156セダンと兄弟車ではないかとすら思われる。この予想が正しいければ動力性能や品質には期待が持てるはずだ。

もちろんブラーボ／ブラーバにはエアバッグ、ESP、ABSなどの安全装備が設定される。フィアットとしては新型ブラーボ／ブラーバ

を、自社の安全技術の象徴にしたいようだ。

フロントマスクのデザインは現行フロントのようなシャープでやや無機質なものである。ベストセラーのゴルフ、アストラ、そしてまもなくスタイリッシュなブラーボ（仮）に対して、ごくオーソドックスなブラーバ（仮）だけに、販売台数で

スタイリッシュかつスポーティなスタイルを持つブラーボ。特にリアゲートの角度などは普通のハッチバックとは一線を画す。ホットバージョンのラインナップも予定され、その運動性能に期待だ。



現行ブラーボ／ブラーバ

どうなる 次期ベーシックフィアット！？



いまから20年も前にデビューしたフィアット・パンダ（写真上）。愛嬌のあるデザインと、シンプルで壊れにくいメカニズムで長い間、世界中で愛されてきたパンダも、間もなく生産が終了する。その後を継ぐのは、すでにコンセプトカー、エコベーシック（写真下）として発表されているモデルだ。12 コモンレールディーゼルを採用するエコベーシックは、世界一廉価な3 カー（100kmを3 の燃料で走ることができるクルマ）となるはずだ。はたしてエコベーシックはパンダの穴を埋められるのか。

1 7 3

サーブもSUV市場に参入
トップモデルは3 V6

サブ
SUV

予想発表時期01年

174

ベクトラとシャシーを共有 2 ターボからラインナップ

サーブ
9-3

予想発表時期02年

サーブはもとも自動車メーカーで、後に自動車生産に参入。さらに商用車メーカーのスカニアと合併した。乗用車部門は80年代に収益が悪化、GM資本の導入を仰ぎ、現在は100% GM資本の別会社である。そのために長い間サーブエンブレムに刻まれていた「スカラフニア」の文字は、いまでは消えていて、2代目900はGMの資本と技術を導入して93年に登場、98年に大規模MMCを受けたと同時に今の車名になった。次期9、3も技術的にはオクル・ベクトラと兄弟車になると予想されるが、本家筋より1年早く02年に登場する。1サーブでの兄弟分9、5はあえて個性的な量販されるで登場したが、量販される9、3はやや抑えたデザインでシヨールムに現れるようだ。エンジンでは従来どおり2、4からターボ付き4気筒だ。

APOLLO

176

予想発表時期03年

オペル・コルサ・ビバ
コルサ(ヴィータ)ベースの
6人乗りミニバン登場

新型コルサ（日本名ヴィータ）にファミリーが増える。それが同じガンマ・プラットフォームを用いたミニバンの仮称コルサ・ピバだ。発表予定は来年 シティ・カーゴ とデグラー後継、そして03年にピバと定年する。ピバはアジラ（ワゴンの従兄弟）とザフィラとの中間に位置するモデルだ。室内配置はシートをただんりスライドさせたりして4人乗りから6人乗りまで変化する。クラスで初めてマルチ機能スティングボールを採用するなど、装備が充実しているという。エンジンは1.1～1.8 のガソリンと、いすゞ製1.7 直噴ディーゼル。価格は現在のレートで130万から155万円と、うれしい価格だ。

177

予想発表時期02年

オペル・ベクトラ

ミドルクラスに
ワイドバリエーションの波

次期ベクトラは現行より若干上級をカバーするのに加え、直接のライバルも質感を上げているので開発に時間をかけ、

当初の01年発表は03年前半に延びそう
だ。エンジンは1.6〜3.2 をラインナップ。
一部のエンジンは三菱製やいすゞ製の
可能性がある。ボディは4ドア・ノッチ
バック、ノッチのついたテールゲートをも
つ5ドア・ハッチバック、キャラバン
(ワゴン)、そして新顔の スポーツコン
ビ(リア・オーバーハングの短い5ドア・
ハッチバック)の4タイプだ。

Hans G. Lehmann/ORION PRESS

178

予想発表時期03年

オペル・オメガ

ついにFFとなる
オペルの最上級セダン

G. Lehmann
/ORION PRESS

オペルの最上級車オメガは、7年前のデビュー当時はBMW・5シリーズ、メルセデスEクラスと比べて控えめなデ

サインが好評だったが、さすがに古くなり、今後アウディA8やVW・D1を相手にするのはつらい。しかしGMがフィアット・グループと組んだことにより、アルファランチャと設計共通化が持ち上がり、開発に遅れが生じている。MCを繰り返しながら延命し、03年にFMCが返される。シャシー共有によりオメガもFFに。

179

予想発表時期02年

ランチャ・カップ

カップ後継車「ティー841」の開発は最終段階に入っており、02年前半には生産が始めるだろう。デザインはディアロコス（98年）がヒントになる。ワゴンポディは計画中だが、クベは中止されるかもしれない。上級仕様の3 V6ガソリンエンジンは3臺から供給されるはずだったが、白紙撤回。3 V6ターボポディールはすでに供給されるという。

180

ランチ・イプシロン

予想発表時期02年

ランチ顔になる
プレステージ・コンパクト

現行イブシロンは月販8000台前後を維持しており、売り上げはほとんど落ちていない。しかし衝突安全性やエミッションが施行予定の規制に適合せず、03年にFMCする。新開発プラットフォームはバンダ後継や次期セイチメントと共通だ。エンジンは1.2 ガソリンと1.2 コモンディーゼル、トランスミッションは5速MTとCVTが採用される。